

自らを

傷つけず

キース
ムーア



自らを傷つ け ず

KEITH MOORE 著

自らを傷つけず

© 2019 キース・ムーア
フェイスライフ出版

ISBN: 978-1-940403-02-1

[BK805F](#)

ムーアライフ・ミニストリーズ
6009 ビジネス・ブールバード
フロリダ州サラソタ市 34240
941-388-6961
www.moorelife.org

本書で引用されている聖句は、特に断りのない限り、すべてCommon English Bibleから引用されています。

自らを傷つけず

この本の出版をととても嬉しく思っています。このみことばのおかげで、多くの人生が長くなり、救われ、変化し、人々は勝利に必要な力と勝利を得ることができると信じています。第1コリント人への手紙第15章54節には、「そして、腐りかけた体が腐ることのないものをまとい、死にゆく体が死ぬことのないものをまとうとき、聖書にあるこの言葉が実現するのです。死は勝利に呑み込まれたのです。

声に出して言いましょう：死は勝利に呑み込まれます。

以前、第一コリント人への手紙15章で、パウロは、死は足下に置くべき最後の敵であると言いました。(25節、26節) **死は友ではなく、敵です。** 私たちは死ぬために作られたのではありません。罪のために死がこの世に生まれました。「罪の支払う報酬は死である」(ローマ6:23)。すべての人が罪を犯したため、アダムから始まるすべての人に死が移りました。でも、ハレルヤ! イエス様は、罪に対する答えであり、罪に勝利される方です。コリント人への手紙第一のこの章では、パウロは、イエスが死者の中からよみがえらされたことについて話しています。ですから、死は私たちに最終的な勝利をもたらすものではありません。**死は終わりではありません。**

55節に「死よ、あなたの刺はどこにあるのか」とあります。勝利はどこにある、死よ? 1節から神の霊がパウロを通してこのことを語っており、55節にはパウロが興奮している様子が伺える。死を愚弄しているのだ。死をもてあそぶなんて、何か強い力が働いているんだな! ?あなたは「死よ、あなたの噛むところはどこですか? 死よ、お前を感じない。あなたの勝利はどこにある? 勝利はないのか! ?あなたは何も勝っていない! 」

ああ、友よ、墓前に立ってこう言えるとき、あるいは死を見つめてこう言えるとき、私たちは勝利を得たのだ。56-57節には、「死の刺し傷は罪であり、罪の力は律法である」とある。私たちの主イエス・キリストによって、この勝利を与えてくださる神に感謝します! 」

声に出してこう言ってください：私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださる神に感謝します。

この聖句は、いろいろなことに勝利することを語る時に使われていますが、私はこの聖句が当てはまるのではないかと思っています。しかし、具体的に言えば15章では、死に対する勝利について語っています。

さて、この真理をヘブライ人への手紙2章14節で見ましょう。「だから、子どもたちは血肉を分かち合っているのだから、彼もまた同じように同じものを分かち合ったのである。死を支配する者、悪魔を死によって滅ぼすためにそうされたのです。」イエス様がやったのですか? イエス様は私たちの代わりに死に、死の力を持つ悪魔を滅ぼすために人間とされました。結果はどうだったのでしょうか? 15節には、「死の恐怖によ

自らを傷つけず

って一生を奴隷のように縛られていた人々を解放してくださった」とあります。私たちが救ってくれたのです。

死の恐怖は、あなたを一生束縛の対象とします。死ぬのが怖くなくなるまで、生きる準備はできていないのです。死の恐怖から解放されなければ、それはあなたを不自由にし、悩ませ、苦しめるでしょう。問題はこのようなことがあちこちで起こっているのに、周りの人たちも同じように起こっているため、人々がそれに気づかないことです。だから、病院や墓地のそばにいたくない、葬式に行きたくないという人が多いんです。病気について話したがる。彼らは震え上がり、「怖い！」と言います。他の話をしよう。」なぜでしょうか？死ぬのが怖いのです。高所恐怖症、飛行恐怖症、孤立恐怖症、あらゆる種類の動物に対する恐怖症など、ギリシャ語名やラテン語名で数限りない恐怖症があります。ウサギへの恐怖があります。一覧を見たことがありますか？バカバカしい限りです。これらはすべて、この「死への恐怖」という一つの恐怖からきています。人は空を飛ぶのが怖いだけでなく、墜落して死ぬのが怖いのです。彼らは高いところが怖いだけでなく、落ちて死ぬのが怖いんです。

死ぬのが怖くなくなると、内面が変わってくるんです。寝ている間に死んでしまうかもしれないので、寝るのが怖いという人がいます。彼らは旅に出ること、道路に出ることを恐れているのです。恐怖のあまり、自宅に監禁されたり、食事が極端に制限されたりしている人がいます。

大切なことを教えます。今、あなたが吸っている空気には、あなたを殺すのに十分な量のゴミが含まれています。いくらオーガニックやナチュラルでも、死ぬほど色々なものが入っているんですよ。それを防いでいるのは、あなたの免疫力と神の力であり、それらは繋がっているのです。しかし、もし主が携拳をこれ以上延期されたら、あなたも、あなたの知り合いも、犬も猫も金魚も死んでしまうのです。しかし、あなたが主を知り、真理を知っているならば、それはあなたを悩ませ、怖がらせるものではないはずです。

神の子として、パウロのような話し方ができるようになるはずですよ。「死よ、あなたの刺はどこにあるのか」（第1コリント人15：55）死よ、あなたの勝利はどこにあるのか？あなたには勝利がありません。イエス様は、死と埋葬と復活を通して、あなたのために死んで支払ってくださいました。ヨハネの黙示録で、「私は死と墓の鍵を持っている」と語っています。(1:18) 鍵を持っているならば、支配権を握っているのです。そして、ご自分のために手に入れたものではありません。自分には必要ないものだったのです。私たちのために用意してくれたのです。

声に出して言ってください。 **私たちは死に打ち勝ったのです。**

今、地球上には少なくとも70億人あまりの人々が生きています。人が多いので、到着（人が生まれること）と出発（人が死ぬこと）が連続します。これは正し

い聖書の用語です。聖書では、出発すること、ここを去ること、主のもとへ行くことについて述べています。

また、ほぼ毎秒、地球上のどこかで2人が死んでいると言われています。つまり、今2人が死に、さらに2人が...さらに2人が...。今日が終わるまでに、地球上のどこかで15万5千人ほどの人々が亡くなっていることでしょう。それなのに、人が死ぬという話を聞くと、「ああ、最悪だ」と言うんです。とても恐ろしいことです。」

いや、それは全地球の道である。それは、それほど衝撃的でトラウマになるようなものではないはずで、来るからには準備しなければなりません。神様を信じて長生きすると、お葬式にたくさん行くことになるんですよ。長く長く生きていれば、周りの人が死んで行くのをたくさん見ることになります。それが毎回無力化されるだけなら、束縛の対象になっていることがわかるのでは？あなたを縛っているのです。でも、その必要はありません。真実を知ったとき、何が起こるのですか？「そうすれば真理を知ることができ、真理はあなたがたを自由にする」（ヨハネ8:32）

少し気の重い話ですが、必要なこととお話ししたいと思います。真実を知ったとき、それはあなたを自由にします。そこには、勝利があります。死んで帰ってきた人はたくさんいます。アフリカの13歳とモンタナの80歳、子ども時代もバックグラウンドもまったく違う人たちが、同じことを表現しているのが面白いですね。死ぬと、気がつくと自分の体の上において、体を見下ろしているんです。当初は自分の体だと気づかなかったという声もあります。ある人が、「うわ、こんなに老けて見えるなんて知らなかった」と言っているのを聞いたんです。そして、パウロはその体験について、「それが体の中にあったのか、体の外にあったのか、私にはわかりません。」と言っているのです。（第二コリント人12:2-4）

だから、気がつくまでに少しの間、体が動かなくなるかもしれません、私は今死んだんだ、と。それなのに、あなたは死んでいません。体の死でもありません。聖書には主が帰ってきて、ラッパが鳴り、あなたの体がよみがえると書いてあります。あなたのために完成させて、あなたに返してくれるのです。しかし、死は終わりではありません。神を信じない人々が死について語るとき、「ただ黒くて何も無い、あなたはもういない、それで終わり、以上」と言います。終わりではありません。聖書は、不信仰者が旅立ち、下り、苦しみのある場所に行くことを明らかにしています。しかし、クリスチャンは旅立ち、主のもとに行きます。それは、ここにいるよりもはるかに良いと聖書は記しています。信じる者にとって、それは損失ではなく、利益なのです。

手術を受け死んでしまった女性がいました。彼女は気づいていなかったが、自分が死んで、その体の上で手術室を見下ろしていました。後日、彼女は外科医に彼らがしたこと、言ったことを説明し、彼らはショックを受けていました。

自らを傷つけず

「無理だ」と言われたのは、ある時、手術とは関係ない話をしていて、その内容を彼女が話したからです。彼らはショックを受けていました。そして、ある機器の不具合について話したところ、「そんなこと知ってるわけがない」ということになりました。

彼女は自分の体から抜け出し、見たものを説明したのです。彼女は「この色は表現できません」と言った。こんなに鮮やかな色を見たことがないし、あそこで聞くような音も聞いたことがないだろう。」まるで、プラスチックやガラクタをすべて取り除いたかのように、本当に見えるし、本当に聞こえるのです。こんなに素敵なことはないでしょう。こんなにすごいことはありません。その光は純粋な愛であり、私はそこに行かなければならない……」と、次々と語る人がいます。

これを聴いてからしばらくして、まあ、当然ですね。神は光である。彼はそうです。そんなに素晴らしいことなら、今すぐ天国へ行けばいいじゃない。この厳しい場所を離れて。自殺の話です。自分で命を絶てばいいじゃないですか。

このようなことは、人と人との間で何度も起こっています。ほとんどの人が、自殺によって影響を受けた人を知っているか、または知っています。それは彼らに大きな影響を与え、人生に数多くの空白と空虚さ、痛みと喪失をもたらしました。そのことについてお話したいです。神の子にとって「出て行く」ことがそんなにいいことなら、早く出て行けばいいじゃないですか。なぜそうしないのか？なぜ行かないか？その理由はいくつかあるのですが、とても良いものばかりです。あなたが自殺してはいけない3つの大きな理由をあげたいと思います。

理由1

悪魔は、あなたの状況が絶望的であると嘘をついているのです。

15歳から24歳までの若者の死因の第3位が自殺であることを知り、心が揺さぶられました。そんなことあってはならないんです。悲しいことです。人はなぜ自殺するのか、自殺するとどうなるのか。

何度も言いますが、それは絶望、憂鬱、絶望、苦痛とつながっているのです。人々は「これ以上良くなることはない」と信じるようになったのです。希望もないし、ここにいる理由もない。」あるいは、「私は傷ついている、もうやめてほしい」と思うようになるのです。彼らはそれを逃げ道として捉えているのです。でも、自分が死んだり、自殺したらどうなるんだろう？これで終わり？真っ暗？いいえ。自殺すれば、体を離れて出てきて、自分が今何をしたのかがよくわかるようになる。

ある女性の表現を聞いたのですが、こんなことを聞くのは珍しいのですが、意気消沈して首を吊って死んでしまったそうです。体外離脱を意識した途端、後悔したという。彼女はそれを深く後悔していた。ご存知のように、肉体と周囲のガラクタから離れれば、また違ってきます。はっきり見えるんですね。友人の一人が彼女を見つけ、持ち上げ、

救命処置を施し、蘇生させたことに感謝します。だから、彼女は自分の話をするのです。明らかに、彼らは彼女を取り戻したのです。

彼女はとても感謝していました。声にも、目にも、それが表れていましたね。これまで数多くの方が自殺しないように助けてきました。しかし、なぜそうなるのでしょうか？なぜ、こんなに何度も起こるのでしょうか？人は痛みを感じると、悪魔は嘘つきになります。彼は意地悪で、残酷です。

13歳の頃、初めての失恋を経験したときのことを思い出します。ひどいことです。恋に落ち、少なくとも恋に落ちることについて知っていたとしても、誰かがあなたの愛情や気持ちを返してくれなかったり、他のところにもっと良いものを見つけたと判断して、先週のゴミのようにあなたを捨ててしまうというようなことは、これまで経験したことがないことでしょう。痛いのです。今まで経験したことの無いような傷で、その弱ったところに悪魔がやってきて、「これは耐え難い痛みだ」と言うのです。誰も君のように傷ついたことはないんだ。」それは嘘です。ほぼ全員がこれだけ痛い目にあっています。

聖書には、「人にとって一般的でない誘惑は、あなたがたを襲っていない」とあります。(1コリント人10:13) あなたが経験していることはすべて、世界中の人々が経験してきたことなのです。しかし、悪魔はとても狡猾で、彼の言うことを聞けば、「この痛みは耐え難い痛みだ」と説得しようとしているのです。あなたの抱えているものは絶望的です。誰も知らないし、誰も共感できないし、生き続けても報われない。」このような弱さや絶望の瞬間に、人は取り返しのつかないことをしてしまうことがあります。

私たちが進むにつれ、人々が神に時間を与えれば、奇跡を見ることができるということ聖書の中で見てほしいのです。私のようにしばらく生きてきて、10歳、11歳、12歳、13歳を過ぎ、いくつかのことを乗り越えてきた人なら、今とは違った視点を持っているはずですが、こんなに痛くても、この世の終わりじゃないんだ、ということがわかりました。神様に少し時間をあげて、私が言うように、「アイスクリームを食べて、昼寝をしよう。」もし、あなたが神に時間を与えるならば、あなたは奇跡を見ることができます。

声に出して言うてみてください。 **物事はとても速く変化します。**

命が助かり、長くなることを信じ、この言葉が人々の心に届くことを信じています。悪魔の仕掛けが明らかになり、人々は何が起こっているのかを知り、自殺に屈しないようになります。

使徒16章26節で、パウロとシラスは殴られて投獄されました。体的に素晴らしい体調ではなかったにもかかわらず、暗く、臭い、地下牢の中で神に祈り、賛美を歌ったと聖書には書かれています。状況が悪いと、落ち込んでネガティブにならざるを得ないのでしょうか？最悪のシナリオの最中でも、強くなって神をほめたたえることができるのです。彼らはそうしていたのです。

自らを傷つけず

彼らが神を賛美していると、「たちまち牢獄の土台を揺るがすほどの激しい地震が起こった」と書かれています。ドアが開いて、みんなの鎖が外れました。」これは非常に特殊な地震です。27節には、「看守が目を覚まして、牢の扉が開いているのを見て、囚人たちが逃げ出したと思い、剣を抜いて自殺しようとした。」とある。彼は正しかったのでしょうか？いいえ。他にも、事実でもないのに思い込みで自殺した人が何人いるのでしょうか。

ヨブは一時期、自殺願望があったということをご存知でしょうか。ヨブ記の第3章で、彼は「なぜだ」と言い続けました。なぜ、こんなことになったのか。なぜ、こうならなかったのか？なぜ？」と言い続けました。なぜ？」

それを警戒しなければなりません。あなたがそれを考え、口に出し始めたら、それは悪魔の声を聞いている証拠で、あなたは間違った暗い道を進んでいるのです。自分が持っていないもの、起きていないもの、できないもの、相手がやらなかったことを言い続けられれば、それはネガティブであり、そこに死があるのです。自分が持っているすべてのもの、神が自分にしてくれたこと、してくれていることすべてに感謝しなくなるのです。死と闇と問題しか見えないところに来て、そこで敵が「それしかない」と勧めてきます。残念だし、これ以上良くなることはないでしょう。希望が生まれることはないでしょう。昔と同じようには戻れません。」私たちは何と言ったのでしょうか？神に時間を与えよ。彼に時間を与えてください。神から奪ってはいけません。

刑務所の所長は自殺を覚悟していました。これは、ピストルを手に取り、頭に当てるのと同じことである。しかし、彼らはピストルではなく、剣を持っていました。それで、この剣を自分の胸、つまり体に当てて、自分の内臓を出そうとしているのです。彼は自殺しようとして、刃物で喉か何かを切っています。28節に、「パウロは大声で叫んだ、『自分を傷つけるな』と...」とあります。

聖書には、自殺を考えている人へのメッセージはあるのでしょうか？どうしようもない、絶望的だ、何もできない、それしかない、と思っている人へのメッセージはありますか？主は「自分に害を与えるな」と言っています。自分を傷つけないように。神様は「自分を傷つけるな」と言ったのでしょうか？パウロを通して言われました。聖霊を通して言われ、全人類のために聖書に記録されたのです。自分を傷つけないように。身を切るようなこと、自分を虐待するようなこと、体の一部を破壊するとわかっていてやることも含まれると思いますか？

声に出して言ってください。自分を傷つけないでください。

「自分を傷つけるな！」と言われました。みんな揃いました！」剣を体内に押し込もうとした時、「全員揃った」と聞いて、え？と思いました。手遅れになるところでした。

悪魔は嘘つきです。「誰もお前なことなど気にしない」と言うでしょう。それは嘘です。「誰のためにもならない、みんなに迷惑をかけるだけだ。あなたがいないほうがみんな

な幸せなんです。」嘘です。「大失敗」だと。あなたは今まで正しいことを何一つしてきませんでした。嘘です。

この文章を分析してみましょう。「あなたは今まで正しいことを何一つしてきませんでした。」一度だけ、お茶を適当に甘くしたのかもしれませんがね。もしかしたら、きっちりゴミを出したのかもしれませんが。「正しいことをしたことがない」なんてことはありえません。眉毛の整え方が絶妙ですね。あなたの人生で何か正しいことがあったはずで

なぜ、そんなことを言うのでしょうか？悪魔は嘘つきだから、このネガティブな考えに陥った時、私は正しいことは何もしたことがないのにと考えるはるの嘘です。嘘だとわかっている、なぜ嘘を繰り返すのか？「誰も私のことなど気にしない。」そんなことはありません。彼らはあなたがしてきたことのすべてに満足していないかもしれませんが、それはあなたを愛していないわけではありません。

ここに真実があります。あなたは、神の姿に似せて作られた、唯一無二の傑作です。今度、悪魔が「お前には何の価値もない」と言ったら、「じゃあ、どうしてイエス様は私を手に入れるために、あんなに代価を払ってくれたんですか」と聞いてみてください。神様は馬鹿ではありません。彼は25セントの商品に10億円も払わないんです。彼はやりません。彼はあなたと私のために、宇宙のあらゆるもののために、これまでで最大の代価を払ってくれたのです。悪魔の嘘を信じないで。ベッドに座って、あるいは横になって、自分を憐れんで泣かないでください。「誰も気にしない。何もかもが正しくなくて、未来がない。僕には何も起こらないよ。」どうしてわかるんですか？生きている時間は短いからです。

では、あなたは何についてどのくらい知っているのでしょうか？あなたの良い神様を信じること、そして何かを示すために時間を与えることです。主があなたを助け、あなたを解放し、あなたに何が出来るかを示すために、しばらく時間を与えてください。

刑務所の看守の状況を見てください。男は胸か喉か、とにかく剣を突き立てて、もう望みはない、と思って斬りかかるところです。どうせ明日の朝には処刑されるんだから、こんなところでいてもしょうがない。みんな行ってしまった。どうせ死ぬんだから。私は死人だ。悪魔はそうやって話すんじゃないのか？「どうせお前は死ぬ、誰にとっても死ぬんだ」いいえ。そのネガティブな話を聞いたら、それは悪魔です。信じるな、聞くな、屈するな。

パウロはどうしたのだろう。彼は、「自分を傷つけるな、みんなここにいる」と言ったんです。と答えると、衛兵は剣を投げ捨てました。「ここにいるのか？」中は真っ暗だった。29-30節に「看守は明かりを呼んで駆け寄り、パウロとシラスの前に震えながらひれ伏した」とあります。彼は彼らを外に連れ出し、「尊いご主人様方、私は何をすれば救われるのでしょうか？」と尋ねました。もし、あと2秒、剣を胸に突き刺すのが早かったらどうだったでしょう。

自らを傷つけず

31節に続けて、「彼らは答えた。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族もすべて救われます。」もし、剣を突き刺していたら？彼の家族はどうですか？「主の言葉」を彼と彼の家の皆に語ったのです。ちょうどその時、夜中に看守が彼らを迎え入れ、傷を洗ってくれたのです。彼と彼の家族の全員がすぐにバプテスマを受けました。彼は彼らを家に連れてきて、食事を与えました。彼は、自分も家族の者もみな神を信じるようになったので、大喜びしたのである。」(使徒16:31-34)

数時間前、彼は比喩的に、ハンマーをコックした状態でピストルを頭に突きつけていました。ほんの数時間後、彼は家族全員が救われ、神を愛し、自由になった状態で、神の人と一緒に笑ってそこに座っていました。もし彼が、あの絶望の瞬間に命を絶っていたら、もし捕虜は全員いなくなった、希望はない、どうせ処刑されるのだという嘘を信じていたら、何を見逃していただろうかと考えてみてください。

何が起きているのか、わかりますか？悪魔はとても繊細で、人を惑わせるのです。彼はとても嘘つきです。絶望的な状況、耐え難い苦痛に見えるとき、私たちは何をしなければならぬのでしょうか。神様に少し時間を与える。

神のみ言葉訳の詩篇91:14には、「あなたが私を愛するから、私はあなたを救い出す。」とあります。主が「わたしはあなたを救う」と言われたとき、あなたは主に頼ることができると信じますか？「あなたが私の名前を知っているから、私はあなたを守る」と言われました。あなたが私を呼ぶとき、私はあなたに答えるでしょう。困ったときはそばにいる。私はあなたを救い、あなたを称えます。長寿で満足させます。私がどのようにあなたを救うかを示しましょう。「(14-16節)私たちを見捨てたり、見捨てられたりするのではないのです。もし、あなたが時間をかければ、主がそうしてくれると信じますか？「一緒にいます。」です私があなたを救います。手伝いますよ。私があなたを守ります。どうすればあなたを救えるのか、見せてあげましょう。私に機会を与えてください。少し時間をください。見せてあげるよ」神に栄光を。

今すぐ辞めて自殺すればいいのに。なぜなら、それは決して見かけや感じとは違うからです。悪魔が言うほど悪いことでは決してないのです。彼はあなたに嘘をつき、あなたを欺き、あなたを滅ぼそうとしているのです。でも、これで終わりではありません。絶望的ではありません。

ここで、もうひとつ知っておいていただきたいことがあります。使徒20章22節から23節で、パウロは御霊によって「今、御霊に促されて、私はエルサレムに行くのです」と言いました。そこで何が起るかはわかりません。私が知っているのは、聖霊が街から街へと、牢獄とトラブルが私を待ち受けていることを証言しているということです。」

パウロの人生には、何か困難があったのでしょうか。本当に試されるような、悪い時期というのはあったのでしょうか？そう、パウロには人生を軽んじるような瞬間があった。しかし、彼はそれをやり遂げました。この時、彼はこう言った。「牢獄と悩みが私を

待ち受けていることを知っている」と。神の霊が彼に示したのです。しかし、パウロは「さて、私の自由な生活は過去のものとなり、私の最良の日は過ぎ去り、私の楽しみは殴られることと刑務所だけとなりました。死んでキリストと一緒にすることは、ここにいるよりずっといい。」いいえ。パウロは何と言ったのですか？「しかし、これらのことは私のモチベーションを上げるものではありません。」その言葉、さっそく使ってみてください。あなたが最悪の状態、最もストレスを感じているとき、あなたは何と言いますか？「どれもこれも感動しない。」

悪魔は、あなたを落胆、絶望、無力に追いやり、自分はまったくの犠牲者であると思わせようとしているのです。しかし、彼は間違っている。あなたは勝利者です。勝ち誇っていますね。あなたは征服者以上の存在です。あなたは死そのものに勝利しているのです。24節でパウロは、「しかし、私の命ほど大切なものはない」と言っています。この人生のわずかな日々**に必死にしがみつ**くのではなく、これは**終わりではありません**。「**喜びのうちに生涯を終えることができるように**」。「**喜びをもってやり遂げなさい**」「**主の喜びはあなた方の力です。主イエスから受けた務めは神の恵みの福音を証すること**」ですから。

理由2

私たちは皆、神によって定められたコースに従い、それを完了することになっていま
す。コースの途中で止まってはいけません。私たちは、自分の進むべき道を見つ
け、最後までやり遂げることが求められています。

声に出して言うてみてください。私にはコースがあります。

悲しいことに、多くのクリスチャンがあちこちに迷い込み、自分が何をすべきなのかを探ろうとする**以外のあらゆることを行って**きました。でも、生きていれば、今からでも遅くはない、自分の進むべき道を見つけることができるのです。あなたがやるべきことがあるはず**です。自分が関わるべきこと**があります。人とつながり、人を助けるのが仕事です。そして、コースを終えるまで辞めないでくださいということです。

でも、聖書には「**忍耐と辛抱**」をもって人生を歩むことが書かれているじゃないですか。大切なことです。やるべきことはたくさんあるし、誰もが自分の仕事をしなければなりません。もし、あなたが早く帰って、仕事をしなかった場合、次に何が起こるか推測してみてください。やるしかないのです。あなたが自殺しても驚かないでください。後日、私たちはあの世であなたと対決し、「おい、早退して仕事をしないとは何事だ」と言うのです。あなたの分も、私たちの分も、やらなきゃいけないんです。」許してやり過ぐすと思いますが、そのことについて連絡が来るかもしれません。

今、「自殺する人は迷子になっているのでは？」と言う人がいます。なぜか自動的にそう思ってしまふんですね。自殺する前に救われたのなら、自殺した後も救われるのでは？自殺した時に迷っていたら、その後も迷っているはず**です。**

自らを傷つけず

人々はそれについて様々な考えを持っています。「技術的にはそうだけど、もしあなたがこれをやって、すでに死んでいたら、あなたは許しを得られるの？」それは人間の理性であり、思考なのです。やる前から救われるなら、やった後も救われます。自分を殺すのと他人を殺すのがなぜそんなに違う？それは決して許されない罪ではありません。許されない罪ではありません。しかし、自殺したからといって、自動的に地獄に落ちる、迷子になるなどと決めつける必要はないのです。そのようなことを想定する理由はありません。前に救われた人は、後にも救われます。

この首吊り自殺未遂の女性の説明のように、迷子になっていると言っていたわけではありません。すぐに後悔したといいます。彼女は気づき、反省しました。普通の人々が得られないような機会を得て、ちゃんと戻ってこられたことがとても嬉しかったそうです。

第二コリント1:8で、パウロは「兄弟姉妹よ、私たちがアジアで経験したトラブルを知らないでいてほしいのです」と語っています。私たちの力をはるかに超えた苦しみの重荷を背負わされ、生き残れないかもしれないと思ったのです。」パウロにはある瞬間があったんですね。「私たちは人生に絶望した」と。どういう意味でしょうか？生き続けることが嫌になったのです。このままではいけないと思ったのでしょうか。これはパウロの話です。

あなたが誰であろうと、あなたがどれだけ知っていると思っていようと、あなたがどれだけ神について知っていると思っていようと、あなたの限界を超えた圧力を受ける可能性があるのです。自分ではどうにもならないと思えるほど追い込まれ、実際にどうにもならないこともあります。多くの人が思っていることですが、ええと、私は強いです。何でもこなせます。しかし、実は誰でもやり過ぎると、人生を軽んじたくなくらい追い込まれてしまうものなのです。誰でもいいんです。そうではないと思うのなら、そこまで追い込まれたことがないだけでしょ。

しかし、パウロが辞めなかったからこそ学んだことを、私たちも学ぶ必要があります。9節に「確かに私たちは死刑になったように思えた」とあります。これは、私たちが自分ではなく、死者をよみがえらせる神を信じるためである。」これは、死に対する勝利ですね。悪魔がやってきて、「お前には手に負えない」と言うでしょう。これはやりすぎです。克服できていないのです。対応できていない」と。多くの場合、顔を上げてこう言う必要があります。無理です。物足りないけど、一人じゃない。私には誰かがついていて、その人は「この世にいる者よりも偉大な方」なのです。(第1ヨハネ4:4)

パウロが、自分を苦しめているものについて、助けてほしいと主に迫ったとき、主は何と言われたのでしょうか。「私の恵みはあなたに十分である。」啓示を受けたとき、「弱いときが強いときだ」と言いました。もうこれ以上ないというところまで来たとき、それは全能者に頼るときであり、私の中に私を超えたものが出てくるするときなのです。」と。(第二コリント12:9-10)

人は自殺をしようとするとき、「できない」と言い続けることに気づくでしょう。もう、どうしようもない。こんなの無理だ。もうダメだ」聖書には、「私は、私を強くしてくださるキリストによって、すべてのことを行うことができます。」と書かれているのに、クリスチャンがこのようなことを言うはずがないのです。(ピリピ4:13) 「できない」と言ってはいけないのです。自分ではできないかもしれないが、あなたを強くしてくださるキリスト・イエスによって、あなたはできるのです。

パウロは続けて第2コリント1:9-10で、「確かに私たちは死刑になったかのように思えました」と述べています。これは、私たちが自分自身ではなく、死者をよみがえらせる神を信じるためであった.....。」これって、まるで詩篇91篇のようですよ。パウロを救い出したのでしょうか？彼は一緒だったのでしょうか？守ってくれたのでしょうか？彼を救い、彼を助け、彼を尊んだのでしょうか。「神は我々を恐ろしい死から救い出してれました。私たちは、彼が再び私たちを救ってくれることに望みを託しました。」これはいいですね？私たちが救ってくれたのです。私たちが解放してくれます。そして、これから起こるどんなことから、私たちが救い出してくださるのです。必ず成功させます。やめない、あきらめない、「もうだめだ」と言わない。私たちは無力な犠牲者なのだ」いいえ、そうではありません。弱いときこそ、強くなる。神様は私の中に現れてくる。主の霊が私を生き返らせてくれる。彼は私を助けてくれるでしょう。

もしあなたが絶望して引き金を引いたり、薬の瓶を飲み込んだりしたら、神の手から離れてしまい、あなたの状況を解決する機会や時間を神に与えないことになるのです。あなたは何を逃したのか、あるいは、来るべき時に他の人のために何ができたのか、まったくわからない。友よ、あなたの勝利は他の人々の勝利なのです。乗り越えたとき、それは周りの人たちの人生に影響を与えます。知っていましたか？でも、もしあなたが諦めて辞めてしまったら、それはあなたの周りの人たちの生活にも影響を及ぼします。あきらめて辞めて、今後10年間に3人も自殺するようなことはしたくないでしょう。彼らはあなたを見て、「彼らがダメなら私もダメだ、だから私も死のう」と思うのです。

そういう影響にならないように。何があってもやめない男、やめない女のような影響を与えたいものです。あなたは神にしがみつき、神は状況を逆転させ、神がどのように救うことができるかを示しました。そうすれば、何年もの間、人に聞かれても、「神様が助けてくれるほど悪いことはない」と立ち上がることができるのです。何でも助けてくれる。そんな気持ちもあったでしょうが、私を引き出してくださいました。辞めなくて本当に良かった。今はこれを楽しんでいるし、この10年、私たちはこれを成し遂げたのだから.....。今、私は何も持たずに死ぬのではないのです。果物があるんです。来世でのご褒美があるんです。」

私はやめません、あなたはどうですか？私は私のレースを走り、私のコースを完走するつもりです。このような試練があった後、パウロは第二テモテ4章で、このように言っています。パウロは、難破し、殴られ、石打され、裏切られました。彼はあるものを見たんですね？しかし、2テモテ4章5節で、部下の若い牧師であるテモテに、「しかし、どんな状況でも自分をコントロールしなければならない」と語っているのです。苦しみ

自らを傷つけず

に耐えて、福音を伝える仕事をし、奉仕を全うしなさい。」そして、6節で「私は今、捧げられる用意ができており、私の旅立ちの時は迫っている」と言っています。今まさに搭乗中で、私の便は出発間際です。そして、「私は善い戦いをした、私は自分の道を終えた、私は信仰を守った」と続けています。神に栄光を。「ついに正義のために授与される王者の花輪が私を待っている。その日、正しい審判者である主が与えてくださるのです。私だけではなく、心を定めてその出現を待っているすべての人に与えてくださるのです」(4:5-8) それは私たちではないだろうか？

今の神様は信仰の神様です。「信仰なくして神を喜ばせることは不可能である。」(ヘブル11:6) 絶望の中で、やめ、あきらめ、もう努力せず、屈服することが「信仰」なのでしょう。あるいは、「負けた、もう遅い、終わりだ」と言うとき？体から離れて出たとたん、誰に会えると思いますか？辞めたこと、挑戦しなかったことを喜んでくれるのだろうか？いいえ。何が彼を喜ばせるのか？信仰は主を喜ばせます。

人生の途中で切り上げられ、残りの人生を奪われるより、よっぽどいい。あと50年、75年あれば、時速160kmで走っているときに道端の街灯のように、あっという間に過ぎ去ってしまう。次に顔を上げると、とにかく時間が経っている。なぜ短く切るのか？この日々は、私たちが持つ貴重な日々です。私たちがこの世にいる時間はとても貴重なものです。痛み、苦悩、絶望、そして「ノー」と言いたくなるような誘惑に耐えて、我慢する方がよっぽどいいのではないのでしょうか？気にしない。以前も神様に助けられたことがあります。今度こそ助けてくれるはずだ。主は決して私を見捨てないし、私を見捨てない。自ら命を絶つようなことはしない。辞めませんよ。私はあきらめない。私は、彼が私を助け、私を示すために時間を与えるつもりです。」

そして、成功すると、どんどん良くなっていく。自由になって、何かいいことが起こる。そして、それ以上に素晴らしいことが起こります。課題もありますが、それを乗り越えていくわけです。試練もあるし、痛い思いもするけど、やめめないこと。そして、何か別の良いことが起こり、次の瞬間、朝起きて、「神に栄光あれ」と気づくのです。もういいや。私の旅立ちの時は迫っており、正直に言うと、「もう終わり」です。もっとやらなければならないことがあるような気がしてなりません。私はよく戦いました。いいレースができたと思います。終了しました。手を伸ばしてゴールを迎えるころです。完走するんだ」って。

次の瞬間、あなたは体から抜け出し、彼に会うと、彼は「よくやった。少しは忠実でした。私はあなたに多くを支配させるつもりです。あなたは辞めなくて、私と一緒にいたのです。」(マタイ25:21)(マタイ25:21) 地上のすべての痛みと苦悩は、3秒で起こったことのようになり、もう考えることはないでしょう。報酬の果実を享受するために、永遠がある。

どんな感じなのか、これを言ってみてほしいんです。

私はよく戦った。

コースを終えた。

信念を貫き通し、覚悟を決めた。

全部見て、全部やって、年を取ってからが本番じゃないですか？年寄りに「年寄り」と言われるくらいに。では、出発してください。

なぜ、終わらせてはいけないのか？なぜ自ら命を絶つべきでないのか？いろいろな理由があるのでしょうか？悪魔は嘘つきです。神に時間を与えさえすれば、決して絶望的になることはないのです。あなたは完走することが前提のコースにいるのです。やる必要があります。とことんやる必要がある。

最後に、なぜ自殺してはいけないのでしょうか？なぜ、自ら命を絶つ必要があるのでしょうか？

理由3

あなたは、あなた自身のものではありません。

コリント人への手紙第一講解6章19～20節には、「あなたがたの体は、あなたがたが神から受けて自分のうちに住んでおられる聖霊のための神殿であることを知るべきである」とあります。あなた方は自分自身を所有していません。神はあなたを神のものにするために、非常に高い代価を支払われました。だから、体をもって神を敬え。」

首を絞めるのか？ショットガンで頭に穴をあけるのか？薬を大量に飲むんですか？手首を切るんですか？誰の体を壊しているんだ？誰のですか？「ええ、私の体」と言うかもしれません。そうなんですか？実際、それは非常に高い値段で買い取られ、支払われたものです。あなたがそれに何かをする前に、主のところに行って、あなたが主の体にこれをしようと考えていることを伝え、それについて主が何を言うかを見る必要があります。あなたは、主がご自分の体の頭に穴を開ける許可を出すことがあると思いますか？手首を切ったりとか？いいえ。「いいえ。」と彼はいいいます。私の体にそんなことをしないでください。私が購入しました。お金を出したのは私です。私が治します。手伝ってあげましょう。復活させます。変身させましょう。」でも、思いついたことを何でもやっていいというわけではなく、あなたのものではありません。それは、彼のものです。

「自分を傷つけるな」という言葉には、自分を切ったり、汚したり、傷つけたり、大量の薬物や他の種類のもので自分を傷つけたりしないことも含まれると思いませんか？

あなたの体だけでなく、彼の体でもあるのです。信じられるでしょうか？だから、主の体を大切にし、主の言うとおりにします。主の奉仕のために聖別しなさい。もし、それが主の奉仕のために聖別されたものであれば、主はそれを維持する義務があるのです。知っていましたか？それに頼っています。「主よ、今、この体はあなたに仕えています」と言うのです。私が自分のレースを全うし、コースを終えるまで、それを維持し、働き続けてくださるよう、あなたを頼りにしています。」私は頻繁に言っています。「こ

自らを傷つけず

の身体は私が必要とする限り、十分に役に立ってくれるだろう」と。きっと役に立ちます。神様がそうしてくださるのです。あなたは、あなた自身のものではありません。

あなたがこの世を去る前に、極めて重要なことがあります。死は終わりではありません。現世での行いは、来世に影響します。

まず、あなたはクリスチャンですか？どうか、救われないうちに死んでいくようなことがないように、この場を去らないでください。あなたは、自分が救われ、神と正しい関係にあることを知る必要があります。2つ目は、コースは終了したのでしょうか？やるべきことはすべてやったと言えるのでしょうか？そして3つ目は、自分が自分でないことを自覚することです。

救いの祈り

父なる神よ、私はあなたを信じます。

あなたの御子イエス様を信じます。

十字架にかかれたこと

そして、私のすべての罪と失敗を贖ったのです。

あなたが彼を死者の中からよみがえらせたこと。

イエス様、私はあなたとあなたが私のためにしてくださったすべてのことを受け入れます。

私はあなたを私の人生の主として告白します。

私は自分のものではなく、あなたのものです。

あなたが助けてくださるなら、私はあなたに従い、あなたに仕えます。

私の人生のすべて。

もし、あなたが自殺を考えたり、自殺未遂をしたことがあり、真実を知ったなら、ただ主の前で悔い改めればいいのです。誰も聞かなくていいんです。目を閉じて、心の中で主に向かって見上げてください。ただ、「主よ、申し訳ありません」と伝えればいいのです。悪魔の嘘に耳を傾けたことを悔い改めます。私は、絶望と無力に屈したことを悔い改めます。あなたはすべてより偉大な存在です。あなたにとって難しいことは何もないのです。

これを声に出して言うてみてください。

神の恩寵により、私は辞めません。

私の中にある主の力によって、私はあきらめない。

力がなくなったとき、物足りないとき、あなたは私と共にいてくれます。

あなたの恵みは私に十分です。

そして、自分の力ではできないとき、私を強くしてくださるキリストによって、すべてのことができるようになるのです。

あなたが助けてくださるなら、私は善き戦いをします。

信念を貫きます。

コースを終了します。
ハレルヤ。

自らを 傷つけない

どうしようもない、絶望的だ、自殺しかないと思ったとき、聖書の中に言葉はあるのでしょうか？

主は「自分に害を与えるな」と言っています。

痛みに耐えられなくなったら、神に時間を与えましょう。神があなたを助け、あなたを解放し、あなたに何ができるかを示してくださいませ。

そうすれば、奇跡を見ることができるようですよ！



キース・ムーア氏は、ミズーリ州ブランソンとフロリダ州サラソタにあるムーア・ライフ・ミニストリーとフェイス・ライフ・チャーチの創設者兼 代表者です。

本書は、Moore Life Ministries/Faith Life Church のパートナーにより、無料で提供されています。

キース・ムーアの示教メッセージは、テクノロジーを通じて翻訳されています。私たちのスタッフはこの言語を話せないため、翻訳の正確さを検証することはできません。



Moore Life Ministries
6009 Business Blvd
Sarasota, FL 34240
(941) 702-7390 | moorelife.org
BK805FJA

NO CHARGE - SEED



ISBN: 978-1-940403-40-3